

平成21年5月市議会臨時会

所 信 表 明

初夏を思わせるような、きょうこの日でございますが、ここに市議会5月臨時会を招集いたしましたところ、議員の皆様におかれましては、大変お忙しいところにもかかわらず、ご健勝にてご参集を賜り、まことにありがとうございます。

平成21年度になり、早速、市政の諸課題につきましてご審議をいただきますことは、市政進展のために喜びにたえない次第でございます。

議長のお許しをいただきまして、今回ご審議いただきます諸議案の説明に先立ち、市長就任のごあいさつと私の市政に対する基本姿勢と所信の一端を申し述べさせていただきます。

まず、前任者への感謝ということでお話しさせていただきます。初めに、これまで6年間にわたり、たゆまぬ改善、改革を常に心に置き、当市の教育、福祉、文化、観光など市勢発展のためにご尽力され、あらゆる分野の推進に大変なご貢献をいただきました栗原稔前市長に、心から敬意をあらわす次第でございます。ここに、前市長の長年にわたる努力に対しまして、市民を代表いたしまして感謝を申し上げます。

次に、市議会議員補欠選挙について。このたび、秩父市議会議員補欠選挙におきまして当選の荣誉に輝かれました山中進議員、上林富夫議員におかれましては、心からお喜び申し上げます。お二人の方が新たに加わることによりまして定数の30人になりますが、今後とも議会と行政が車の両輪となって現在の厳しい難局を乗り越え、市民生活の安定と安心・安全なまちづくりのためにお互いが切磋琢磨し、全精力をつぎ込んでいただくことをご期待申し上げます。

私の決意として。私は、このたび大変に多くの市民の皆様から厳粛なるご信託をいただき、秩父市長に就任することができました。昨年まで私は議員として秩父市の発展に微力ながら尽くしてまいりましたが、今ここに市長として皆様の前に立たせていただき、改めて私に課せられました責務の重大さを深く認識し、今後の市政運営に全力を挙げ、皆様からお寄せいただきました熱い期待にこたえるべく、「粉骨砕身」の覚悟で市政運営に取り組む決意を新たにし、この職責を全うする所存でございます。

続きまして、秩父市の置かれている現状と今後の私の基本姿勢ということで申し上げます。

本市を取り巻く環境は、少子高齢化や若者の流出などによる人口減少の進行、地方分権の進展、厳しい財政状況、さらには世界的な経済不況のあおりなどに

より、大きく変化しております。

私は、新しい環境に対応するためには行政経営の変革が必要であると考え、「変えたい 一緒に!!」を合い言葉に、市民の皆様とともに、この変革をなし遂げようと声を大にして訴えてまいりました。

行財政改革をさらに推し進め、事業の見直しを行い、徹底した無駄の排除に努めることにより、「信頼される市政」を実現し、そして市が保有するさまざまな情報は、可能な限り市民の皆様にはわかりやすく公開し、情報を共有する公正、透明な「開かれた市政」のもと、市民の皆様とともに変革をなし遂げ、未来への責任を果たしていきたいと考えております。そのためには、全職員が一丸となって行政経営の変革に取り組み、市役所を市民の皆様から信頼され、文字どおり「真に役立つ所」にしなければなりません。

まず、「開かれた市政」実現の第一歩といたしまして、公約にも掲げましたが、「開かれた市長室」を、本庁舎1階総合窓口にて、「ふらっと市長室」と称し、来る5月29日から開始いたします。この「ふらっと」という意味でございますが、市民が気軽に、気さくに訪れるというイメージがあり、英語のフラット（FLAT）が「平ら」という意味であることから、垣根のない、分け隔てなくという気持ちも込めてネーミングいたしました。

私は、この日を皮切りに、執務のあいた時間にはできるだけ総合窓口内に座り、来庁される市民の皆様とコミュニケーションを図ってまいります。さらに、総合支所におきましても、折に触れ、同様な機会を設けていきたいと思っております。

私の市政に対する基本姿勢を申し上げます。私は5月1日の市長就任に当たり、登庁初日に職員に訓示を行いました。その中で、職員の仕事に対する心構えとして、「自分の足で現場に出かけ、見て、聞いて感じてほしい」、「常に市民に顔を向けてほしい」、そして「見たこと、聞いたことを行動にあらわしてほしい」、まさに現場主義ということをお客様方に訓示して強調し、「今日の厳しい難局と多くの課題を克服するために職員が一丸となって頑張りましょう」と、理解を求めたところでございます。合併して4年が経過しましたが、職員にはさらなる意識改革と、一歩進んだ「市民視点での市政運営」が求められております。市長と職員のパートナーシップにより、「信頼される政治」、「開かれた市政」を実現してまいりたいと考えております。

私の環境への考え方を申し上げます。私は、かねてから、秩父地域の将来の

姿は、「環境立市・秩父」であると申し上げてまいりました。本市の有する豊かな森林資源、そこから生み出される命の清流を次の世代に伝えることは、今を生きる私たちの務めであると思います。

一方、地域の活性化には経済発展が欠かせません。経済発展は、ともすると自然破壊につながりかねないということは言うまでもありません。そこで、市民、企業、行政が一体となり、自然環境の保全をしつつ、産業の活性化を目指すための「環境市民会議」を立ち上げて、持続可能な社会、「環境立市・秩父」をつくり上げていこうと考えております。

産業育成について。まちづくりの主役である市民の健康を守り、安心して暮らしていけるよう、定住自立圏構想も視野に入れた地域医療、とりわけ救急医療、小児医療の充実を図り、市民の健康を守ります。そして、未来を担う子どもたちには、「ふるさと秩父」を誇りに思い、基礎学力と自己判断力など「人間力」を向上させる教育を進め、ここで生まれ育った若者が住み続けられるよう、地元企業とも連携し、秩父の特性を生かした新たな企業育成や誘致を積極的に進めてまいります。

秩父には、緑豊かな自然に加え、先人から連綿と受け継がれた多くの祭りや民俗芸能などの伝統文化があります。私は、これらの伝統文化に触れるとき、このまちに生まれたことを誇りに思うと同時に、この伝統文化をしっかりと次代に伝えていかなければならないと強く感じるのです。そして、今後はこれらの地域資源のみならず、埋もれている自然や人材などの地域資源を発掘して、世に出していこうと考えております。

以上、市長就任に当たりまして、私の市政に対する所信の一端を申し上げましたが、私のまちづくりに対する基本的な指針は、「まちづくり基本条例」であります。この条例には、「情報共有の原則」、「市民参画の原則」、「協働の原則」というまちづくり基本原則が規定されております。私は、「まちづくり基本条例」の趣旨を尊重し、これらの基本原則にのっとり、まちづくりを進めてまいります。

なお、今、新型インフルエンザということで、いろいろなところで報道され、多くの方々のご心配されている現状でございます。これに対しては後ほど述べさせていただきます。

何とぞ、市民の皆様並びに議員の皆様におかれましては、温かいご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます。